



令和5年度

ほけんだより

No.6 令和5年8月31日

まだまだ残暑が続きますが、幾分過ごしやすい日が増えてきました。元気いっぱい夏を過ごした子どもたち。夏の疲れが出やすくなる時期なので、ゆっくりお風呂に入り、たっぷり睡眠をとるなどして、体調を崩さないように気を付けましょう。

比企医師会管内幼稚園・保育園情報交換会、『感染症対策について』の研修を受けて
R5年7月19日19:30より 小川町リリックおがわ 3名受講

人に感染する風邪のウイルスは約200種類あり、初めて出会うウイルスには必ず感染をします。ウイルスに感染する(風邪を引く)ことは、人間にとっては宿命であり、一度感染したウイルスには原則として二度と感染しません(終生免疫)。(例外もあります)

6歳までに多くの風邪を引くことは、将来に備えた大事な仕事です。心配はありません。

5月から急増している様々な感染症(風邪)は、新型コロナウイルス感染症予防でマスク等を使用して、風邪にかかる機会が減少した為です。

そのため感染症(風邪)が次々流行し始めたのです(感染爆発)

子どもたちにとってもっと怖い感染症は沢山あります。

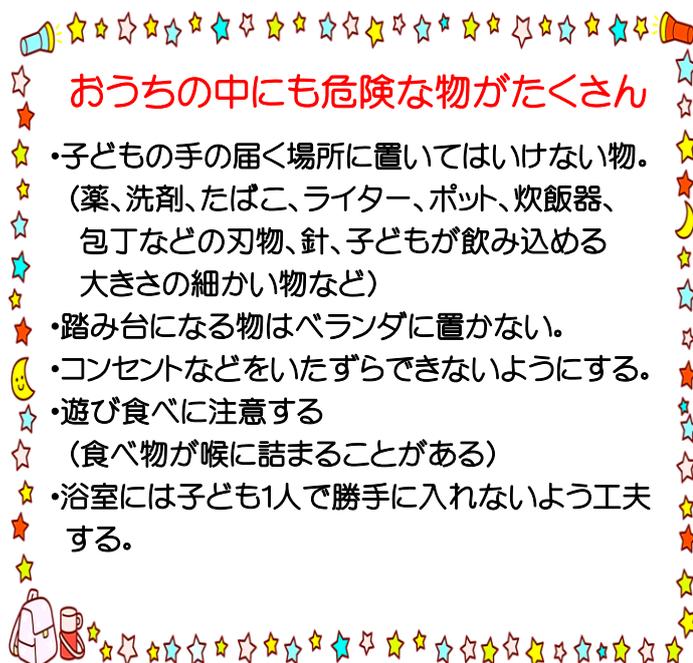
夏風邪として、手足口病・ヘルパンギーナ・プール熱は、発熱と咽頭炎が主症状で、時に脳炎を起こし死亡する事があります。

インフルエンザ(5類)は発熱・全身倦怠感・頭痛・筋肉痛等の全身症状があります。

インフルエンザは毎年平均して数十名の子ども達が脳炎・脳症で死亡しています。

自然に風邪を引く事を阻害され、ウイルスに対し免疫を持たない子ども達が急増したため、最も懸念されるのは、この冬に予想されるインフルエンザの大流行です。

予防する為には、手洗い・うがい・早寝早起き朝ごはん等の基本的な生活習慣が大事です。



おうちの中にも危険な物がたくさん

- 子どもの手の届く場所に置いてはいけない物。
(薬、洗剤、たばこ、ライター、ポット、炊飯器、包丁などの刃物、針、子どもが飲み込める大きさの細かい物など)
- 踏み台になる物はベランダに置かない。
- コンセントなどをいたずらできないようにする。
- 遊び食べに注意する
(食べ物喉に詰まることがある)
- 浴室には子ども1人で勝手に入れないよう工夫する。

災害に備えて

- 9月になると台風などによる豪雨や突風に見舞われます。災害が発生する前に、家族の中で話し合いをしましょう、
- 非常時の持ち物を詰めておきましょう。
 - 避難場所がどこなのか、そこまでの経路を確認しておきましょう。
 - 棚の上に置いてある物は下ろし、倒れそうな物などは固定するなどの工夫をしましょう。
 - はぐれた時の待ち合わせ場所や緊急連絡先はいつも身に付けるようにしましょう。

